

## 初年次学生における希望就職地の選択の現状

### —「わかやま未来学副専攻」に関する学生アンケートから—

富永 哲雄・田代 優秋・佐藤 祐介・大坪 史人・友渕 貴之

#### 1. はじめに

大学の新たな役割として、地域貢献が求められるようになって久しい（文部科学省 2008）。それは、2006 年の教育基本法第 7 条改正と、2007 年の学校教育法第 83 条改正以来、政策的な誘導もあって、各地で大学による地域貢献が進められてきた。そして、大学の研究成果の還元としてアウトリーチ活動などが積極的になされてきたが、一方で地域課題の多様化や複雑化の影響もあり課題解決までには応えられていない現状もある。また地域連携についても「組織間」というよりは、未だ教員などの「個人間」に留まっている場合も多い。こうした背景から、国立大学改革実行プラン（文部科学省 2012）の中で「地域再生の核となる大学づくり COC（Center of Community）構想の推進」が示され、地域課題の解決に向けた地域と大学の連携が強化されることになった。さらに 2015 年からは、地域と大学の連携を発展する施策として、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的にした「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成する教育カリキュラムの改革」を進める、いわゆる「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（文部科学省 2015）が行われている。

和歌山大学では、2015 年度より COC+ 事業として「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」を実施している。この実現に向けて、教育プログラム「わかやま未来学副専攻（以下、副専攻）」が設置され、本学のみならず、和歌山県内の大学・短期大学・高等専門学校、大阪府下の大学、地方公共団体、県内企業などと協働で展開することを基本とし、地域課題に即した実践的な「教育科目」及び「実践型インターンシップ」を行う。この副専攻の教育カリキュラムは、原則 3 年間のカリキュラムとなっており、初年次が教養科目を中心に和歌山について学ぶ座学、2 年次が座学と地域を往復しながら学び、3 年次が前期・後期を通じて地域に赴く実践型インターンシップを行う（図 1）。

本副専攻は、2015 年度を準備期間とし、2016 年度から副専攻が本格的に実施され、初年次学生を対象に進められている。今後、本格実施される副専攻による「教育効果」、「地域志向性の変化」、「学生の就職意識の変化」などを計るためには、初年次における学生の現状を把握しておく必要がある。そこで和歌山大学の学生を対象として、選択必修の科目群であり、かつ初年次学生全員が履修する「わか

やま」学群の授業を通じて学生へのアンケートを実施し、初年次学生が希望する就職地に関する現状を調査した。本報告ではこれらの現状報告を行い、副専攻履修前の資料、あるいは各種評価の基礎的資料としたい。

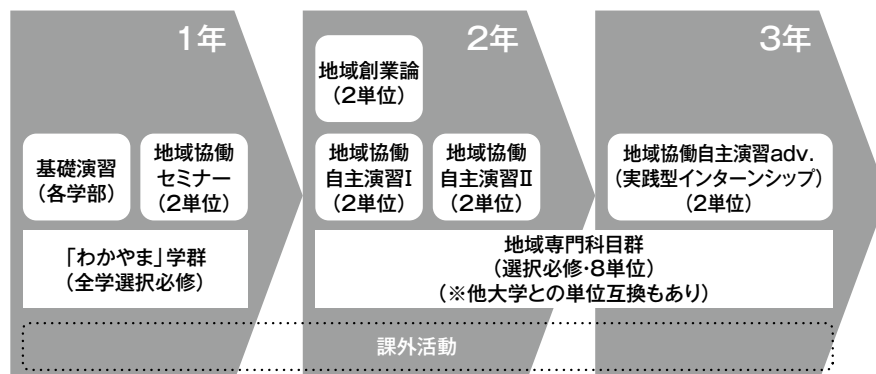


図1 わかやま未来学副専攻のカリキュラム

## 2. アンケート調査の方法

### 2.1 アンケートの趣旨

COC+ 事業では、教育を通じて学生が地域課題に目を向け、地方にも活躍の場が存在することを示し、結果として地方定住者の増加を目指している。このことは都市部での就業を否定的に捉えたものでも、地方での就業を斡旋、誘導するものでもない。就職先選択時に「地方も選択肢のひとつ」として学生に提示することに他ならない。そこで、初年次の時点で希望する就職地（以下、希望就職地）の把握には「都会か地方か」といった対立的な設問は控え、和歌山県とそれ以外を区別できるようにアンケートを配慮した。また、設問項目には希望就職地に影響が想定される個人的な情報（出身地、本学への入学前後での居住地の変化（自宅等からの通学、あるいは下宿））も含まれていたため、回答は無記名方式として回答者に配慮した。

### 2.2 アンケートの調査概要

アンケート内容は主に5つから構成され、性別や学部・学年といった（1）属性情報、（2）入学前後の居住地、（3）地域活動への参加の程度、授業を受けた上での（4）和歌山県への興味・関心、および（5）入学時の希望就職地である。ここで、地域活動とは「地域との交流や、地域課題の解決や支援活動」とした（配布したアンケート用紙は参考資料として本報告の末尾に添付している）。アンケートは初年次学生からの回答を出来る限り広く収集するために教養かつ選択必修科目である「わかやま」学群の受講生を対象とした。具体的には前期開講科目である5科目「わかやま未来学」、「熊野スタディーズ」、「わかやまの先人たち」、「わかやまを学ぶ」、「グローバル起業論」の授業を通じて配布・回収を行った。アンケートの実施は、当該科目の担当教員が授業を利用して学生に依頼し、記入後その場で回収したが、

回答自体は学生の任意とした。5科目を重複して受講した学生は初回時のみの回答とした。アンケートの実施時期は2016年7月19～28日であった。

アンケートの結果、回答者数は702名、5科目の延べ履修者（1,057名）に対する回答率は66.4%であった。このうち初年次学生の回答者数は521名であり、これは全4学部（1年次在籍者938名）のうち55.5%に相当した。ただし、学部ごとの回答者数にはばらつきがあり、教育学部とシステム工学部が多く、経済学部が少なかった（表1）。なお、本報告の以降で用いる初年次学生のデータは、性別が無回答であった教育学部の1名を除いた520名（全4学部の1年次在籍者に占める回答者の割合55.4%）を対象とした。

表1 回答者数の学部・学年別の回答者数

学部	1年次	2年次	3年次	4年次	未回答	合計	1年次在籍者に占める回答者の割合
教育学部	176	25	15	5	2	223	99.4%
経済学部	75	2	11	1	0	89	23.5%
システム工学部	206	54	34	13	0	307	65.4%
観光学部	64	10	5	0	0	79	50.4%
その他	0	0	0	0	2	2	—
未回答	0	0	0	0	2	2	—
合計	521	91	65	19	6	702	55.5%

◆50

### 3. アンケート調査の結果

#### 3.1 入学前後の居住地

初年次学生の入学前の居住地を表2に示す。回答者の最も多い居住地は大阪府で230名（44.2%）、次が和歌山県で156名（30.0%）であり、近畿地方だけで451名（86.7%）であった。人数の多かった大阪府と和歌山県について、市区町村ごとに入学前後の居住者数を表3と表4に示す。大阪府の市区町村についてみると、泉北地区から70名（大阪府全体の30.4%）、泉南地区から52名（22.6%）、大阪市から43名（18.7%）が入学しており、これら3地区だけで71.7%を占めている。また、入学後においても和歌山市への転居者は少なく、入学前の居住地からの通学者が多い。通学に便の良い南海本線やJR阪和線の沿線市区町村からは転居者が少ないといえる。

次に、和歌山県の市町についてみると、居住地は入学前後をあわせて和歌山市が最も多く、次に隣接自治体である海南市、岩出市、紀の川市や、距離的に離れるが公共交通機関で通学可能な有田川町や橋本市が続いている。しかしながら、県南部地域は御坊市より南で和歌山市への通学者はおらず、転居者のみとなる。これは、山間部や御坊市より南からの通学には、公共交通機関を用いると時間がかかり現実的でないためであろう。これらのことから、初年次学生にとっての通

学範囲は本学の北側は大阪市、東側は橋本市、南側は御坊市までといえる。これらの範囲は公共交通機関を利用した通学時間が約2時間であり、それを超える場合は大学進学をきっかけに和歌山市内に居住する可能性が高い。後述する「希望就職地の選定」には、こうした入学前の居住地（大部分が自宅や親類宅と考えられる）からの通勤の可否が影響する可能性がある。

表2 初年次学生の入学前の居住地

地方	都道府県	回答者数	割合	地方別の割合	学部			
					システム工学部	観光学部	教育学部	経済学部
北海道	北海道	2	0.4%	0.4%	1		1	
関東	茨城県	2	0.4%	0.4%	1	1		
	群馬県	1	0.2%		1			
	千葉県	1	0.2%				1	
	神奈川県	3	0.6%				1	2
北陸	富山県	1	0.2%	1.5%		1		
	石川県	4	0.8%			1	3	
	福井県	3	0.6%				2	1
中部	長野県	2	0.4%	0.8%		1	1	
	岐阜県	2	0.4%				2	
東海	静岡県	3	0.6%	3.1%	1		1	1
	愛知県	7	1.3%		2	1	4	
	三重県	6	1.2%		3	2		1
近畿	滋賀県	6	1.2%	86.7%	2	2	2	
	京都府	10	1.9%		5	2	2	1
	大阪府	230	44.2%		129	25	56	20
	兵庫県	34	6.5%		8	2	22	2
	奈良県	15	2.9%		7	1	6	1
	和歌山県	156	30.0%		36	14	67	39
中国	鳥取県	3	0.6%	3.1%	1	1		1
	島根県	4	0.8%		1			3
	岡山県	5	1.0%			3	2	
	広島県	4	0.8%		1	3		
四国	香川県	1	0.2%	0.6%				1
	愛媛県	1	0.2%				1	
	高知県	1	0.2%				1	
九州	長崎県	4	0.8%	1.2%	1	1		2
	熊本県	1	0.2%		1			
	宮崎県	1	0.2%			1		
その他	海外などその他	3	0.6%	1.3%	2	1		
	未回答	4	0.8%		3	1		
合計		520	100%		206	64	175	75

表 3 市区町村別の入学前後の大阪府居住者

地区	市町村	入学前		入学後	
		居住者数	居住者数	和歌山市への 転居者数	未回答
大阪市	大阪市	43	41	2	
豊能	豊中市	6	4	2	
	箕面市	3	1	2	
三島	吹田市	1	1		
北河内	枚方市	4	3	1	
	守口市	2	2		
	寝屋川市	1		1	
中河内	東大阪市	7	7		
	八尾市	4	2	1	1
	柏原市	2	1	1	
南河内	河内長野市	7	7		
	富田林市	5	5		
	羽曳野市	5	5		
	大阪狭山市	3	2	1	
	松原市	3	2	1	
	藤井寺市	2	2		
	太子町	2	2		
	河南町	1	1		
泉北	堺市	49	45	2	2
	和泉市	15	15		
	泉大津市	5	5		
	高石市	1	1		
泉南	泉南市	3	3		
	熊取町	5	5		
	泉佐野市	5	5		
	岸和田市	14	14		
	阪南市	12	12		
	貝塚市	10	10		
	岬町	3	3		
その他	未回答	7			7
合計		230	206	14	10

表 4 市町村別の入学前後の和歌山県居住者

市町村	入学前		入学後	
	居住者数	居住者数	和歌山市への 転居者数	未回答
和歌山市	75	73		2
海南市	10	9	1	
有田川町	10	6	4	
岩出市	9	9		
紀の川市	9	8	1	
橋本市	8	8		
有田市	7	5	2	
かつらぎ町	4	4		
御坊市	3	1	2	
日高町	2	1	1	
湯浅町	2	1	1	
日高川町	1	1		
高野町	1	1		
印南町	2		2	
田辺市	3		3	
新宮市	3		3	
白浜町	2		2	
上富田町	1		1	
串本町	1		1	
すさみ町	1		1	
未回答	2			1
合計	156	127	26	3

### 3.2 希望する就職地

#### (1) 入学前の居住地別にみた希望就職地

初年次学生の現時点での希望就職地は、全体の傾向としては「場所不問（就職地の希望がなく特に問わないことに相当）」が28.7%（149名）、「和歌山県外志向（地元と和歌山県を除いた地域に相当）」が24.4%（127名）、「地元（入学前の居住市区町村に相当）」が18.8%（98名）であった（表5）。アンケート実施時の想定としては、入学後まもなく希望就職地をそれほど明確に絞っておらず、希望就職地「未定」が多いと考えていた。しかしながら、実際は少なく、全都道府県でみると8.5%（44名）、近畿地方では37名、近畿地方以外では7名、和歌山県では12名であった。

入学前の居住地と希望就職地との関係を見る。近畿2府4県からの入学者が86.7%を占めていたことから、以降では近畿地方とそれ以外に区別してみいく（図2）。近畿地方全体（451名）では、希望就職地の中で最も多かった回答は「場所不問」が29.9%（135名）、「和歌山県外志向」希望者が24.4%（127名）、「地元」希望者が17.5%（79名）であった。一方、近畿地方以外（69名）についてみると傾向が異なっており、「和歌山県外志向」が33.3%（23名）、「地元」が27.5%（19

名)、「場所不問」が20.3% (14名)であった。こうした傾向の違いは、近畿地方以外からの入学生を考えると、ある程度の入学目的、学習目標、将来目標などを考えて進学先を選択していることが想定でき、初年次であってもそれに応じた希望就職地を定めている可能性がみてとれた。

次に和歌山県出身者 (156名) について着目すると、「和歌山県内志向 (和歌山県出身者はその地元地域を除いた県内を想定)」を希望する割合が38.5% (60名) と最も高く、「場所不問」希望者が26.3% (41名)、「和歌山県外志向」希望者が16.0% (25名) と続く。「地元」希望者の割合が他都道府県よりも低く7.1% (11名)であったが、「和歌山県内志向」をあわせた和歌山県内で就職を希望する学生は45.5% (71名)となる。つまり、和歌山県内出身者には「地元 (市町村や地区) にはこだわらず、和歌山県内であればよい」、あるいは「実家から適度に近い範囲に留まりたい」といった近居への希望が想定される。これは、市町村別に精査する必要があるため、後述の3.2 (4) で述べたい。

表5 出身都道府県ごとにみた初年次学生の希望就職地

地方	都道府県	希望就職地								合計
		地元志向	和歌山県内志向	和歌山県外志向	海外志向	場所不問	未定	その他	未回答	
北海道	北海道			1			1			2
関東	茨城県					2				2
	群馬県			1						1
	千葉県			1						1
	神奈川県	1	1	1						3
北陸	富山県					1				1
	石川県	2	1	1						4
	福井県	1		2						3
中部	長野県	1	1							2
	岐阜県	1		1						2
東海	静岡県			2		1				3
	愛知県	3		2		2				7
	三重県	1		4			1			6
近畿	滋賀県			3	1	2				6
	京都府	2	1	3	3	1				10
	大阪府	55	7	61	11	75	18	1	2	230
	兵庫県	5	1	9		11	6	1	1	34
	奈良県	6		3		5	1			15
	和歌山県	11	60	25	4	41	12	3		156
中国	鳥取県					2	1			3
	島根県	2		1		1				4
	岡山県	3		1		1				5
	広島県	1		1		1	1			4
四国	香川県	1								1
	愛媛県					1				1
	高知県					1				1
九州	長崎県	2		1	1					4
	熊本県							1		1
	宮崎県			1						1
その他	海外などその他				1		2			3
	未回答			2		1	1			4
合計	(人数)	98	72	127	21	149	44	6	3	520
	(割合)	18.8%	13.8%	24.4%	4.0%	28.7%	8.5%	1.2%	0.6%	100.0%

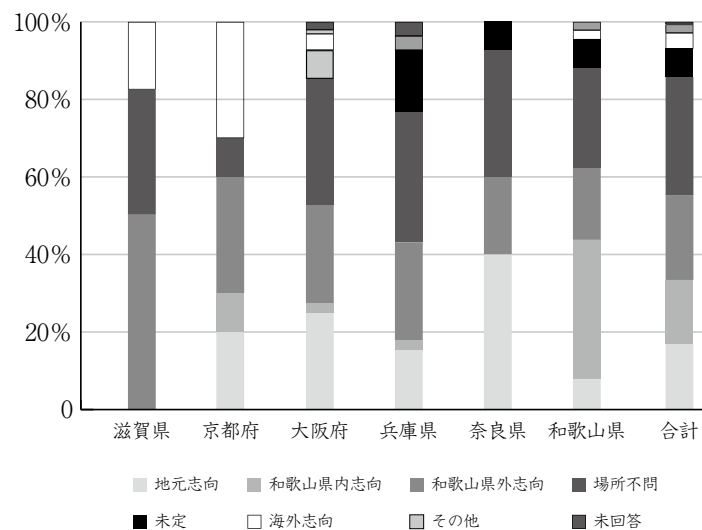


図2 入学前の居住都道府県別にみた希望就職地

## (2) 学部別にみた希望就職地

学部別にみた希望就職地について表6に示す。表中の上段が人数を、下段が学部ごとの割合を、欄の色付けは学部ごとで最も人数が多かった就職地を示している。学部別にみると、やや違いがみられた。システム工学部と観光学部で「場所不問」の回答割合が最も高く、30%を超えている。一方、教育学部は「和歌山県外志向」で、経済学部は「和歌山県内志向」の割合が最も高い。

このデータだけでは学部の特徴すべてを把握することは難しいが、前掲の表2も参照しながら学部ごとに詳細をみていきたい。工学部は和歌山大学で唯一の理系学部であり、就職先としてより専門性のある業界が志望される。したがって、職種や業種の方が優先され、場所の選択肢は多くない。また、大阪府出身者が62.6%（129名）と和歌山県出身者17.5%（36名）よりも多い。結果として、和歌山県内志向が他学部よりも低くなっている。観光学部はおおよそ平均的な値で、「和歌山県外志向」が他学部よりも低く、「場所不問」が高いという傾向がみられる。大阪府出身者39.1%（25名）に対し、和歌山県出身者が21.9%（14名）とやや増えるため、「和歌山県内志向」もやや高い。教育学部は大阪府出身者32.0%（56名）、和歌山県出身者38.3%（67名）と同程度の割合であるため、「場所不問」がやや少なく、「和歌山県内志向」「和歌山県外志向」ともにやや高い。経済学部は和歌山出身者が52.0%（67名）と割合が高く、「和歌山県内志向」と「地元志向」が高い。



表 6 学部別の希望就職地

学部	希望就職地								合計
	地元志向	和歌山県内志向	和歌山県外志向	海外志向	場所不問	未定	その他	未回答	
システム工学部	35 17.0%	12 5.8%	53 25.7%	11 5.3%	68 33.0%	24 11.7%	3 1.5%	0 0.0%	206 100.0%
観光学部	11 17.2%	8 12.5%	10 15.6%	3 4.7%	23 35.9%	7 10.9%	1 1.6%	1 1.6%	64 100.0%
教育学部	31 17.7%	29 16.6%	51 29.1%	7 4.0%	43 24.6%	11 6.3%	2 1.1%	1 0.6%	175 100.0%
経済学部	21 28.0%	23 30.7%	13 17.3%	0 0.0%	15 20.0%	2 2.7%	0 0.0%	1 1.3%	75 100.0%
合計	98 18.8%	72 13.8%	127 24.4%	21 4.0%	149 28.7%	44 8.5%	6 1.2%	3 0.6%	520 100.0%

## (3) 属性ごとにみた希望就職地

回答者の属性ごとにみた希望就職地について表7に示す。表中の上段が人数を、下段が属性ごとにみた割合を、欄の色付けが属性ごとで最も人数が多かった希望就職地を示している。通学形態からみていくと、転居者は通学者に比べ「地元志向」が強く、「和歌山県内志向」希望者が少ない。一方、通学者は転居者に比べて「和歌山県内志向」と「場所不問」が高い傾向にある。また、「海外志向」と「未定」には大きな差異はみられず、それぞれ一定数存在している。

次に、性別ごとにみていくと、男女間での意識の差が現れていた。女性は「地元志向」と「和歌山県内志向」が強く、男性は「場所不問」志向が強い。

表 7 属性別の希望就職地

属性		希望就職地								合計
		地元志向	和歌山県内志向	和歌山県外志向	海外志向	場所不問	未定	その他	未回答	
通学形態	通学者	55 16.0%	57 16.6%	79 23.0%	12 3.5%	107 31.1%	28 8.1%	2 0.6%	4 1.2%	344 100.0%
	転居者	40 25.3%	13 8.2%	43 27.2%	8 5.1%	37 23.4%	14 8.9%	1 0.6%	2 1.3%	158 100.0%
	不明	3 16.7%	2 11.1%	5 27.8%	1 5.6%	5 27.8%	2 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	18 100.0%
性別	男性	57 17.8%	35 10.9%	78 24.3%	15 4.7%	100 31.2%	28 8.7%	3 0.9%	5 1.6%	321 100.0%
	女性	41 20.6%	37 18.6%	49 24.6%	6 3.0%	49 24.6%	16 8.0%	0 0.0%	1 0.5%	199 100.0%
	合計	98 18.8%	72 13.8%	127 24.4%	21 4.0%	149 28.7%	44 8.5%	3 0.6%	3 1.2%	520 100.0%

## (4) 和歌山県出身者の希望就職地

和歌山県内出身者の希望就職地について表8に示す。表中の上段が人数を、下段が居住地域別の割合を、欄の色付けは通学形態ごとで最も人数が多かった就職希望地を示す。前述の3.2 (1) と (3) も参照しながら、和歌山県出身者の市町

村ごとに希望就職地をみていきたい。

まず最も特徴的な結果として、通学圏内の学生142名のうち40.1%が、「地元志向」ではなく「和歌山県内志向」であった。和歌山市出身者が「地元志向」ではなく「和歌山県内志向」と回答した理由は、「地元」から想定される空間規模が居住している町丁目の範囲、あるいは小中学校校区を想定していた可能性がある。このため、同じ和歌山市内であっても“今、居住しているその場所”を「地元」と回答し、それ以外を「和歌山県内志向」と回答していたと思われる。一方、「和歌山県外志向」や「海外志向」はそれぞれ14.8%（21名）、2.8%（4名）で、初年次学生は県外に出ることを積極的に求めている訳ではなかった。ただし、「場所不問」と「未定」の回答者がそれぞれ27.5%（39名）、7.7%（11名）と比較的多い。

次に、下宿圏内の学生について述べたい。和歌山県出身者に限ってみると、13名と少ないが、通学圏の学生より「地元志向」の割合が高く、また「和歌山県内志向」と合わせると半数の7名が希望していることになる。つまり、和歌山県出身者には県内定住を望む傾向があり、和歌山市内への通学・通勤圏内の市町村出身者は「地元も含めた県内」を、通学・通勤圏外の市町村出身者はより「地元地域」を志向していると考えられた。

表8 和歌山県内出身者の希望就職地

市町村		就職地希望							合計
		地元志向	和歌山県内志向	和歌山県外志向	海外志向	場所不問	未定	その他	
通学圏内	和歌山市	3	30	13	1	23	4	2	76
	有田川町		6			3	1		10
	有田市		5	2					7
	日高町	1				1			2
	日高川町	1							1
	湯浅町		1				1		2
	橋本市		2	1	1	3	1		8
	紀の川市		3	2		2	1	1	9
	岩出市		3	1		3	2		9
	海南市		5	2	1	2			10
	かつらぎ町		1		1	2			4
	高野町	1							1
	御坊市	1	1				1		3
	合計	7	57	21	4	39	11	3	142
		4.9%	40.1%	14.8%	2.8%	27.5%	7.7%	2.1%	100.0%
下宿圏内	白浜町	1				1			2
	田辺市	1		1			1		3
	新宮市	1	1	1					3
	上富田町		1						1
	串本町		1						1
	印南町	1		1					2
	すさみ町					1			1
	未回答		1	1					2
	合計	4	3	3	0	2	1	0	13
		30.8%	23.1%	23.1%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	100.0%
総合計		11	61	25	4	41	12	3	157
		7.0%	38.9%	15.9%	2.5%	26.1%	7.6%	1.9%	100.0%

### 3.3 地域活動

地域活動への参加程度について、学部および性別ごとに表9に示す。表中の上段は人数を、下段はその割合を、欄の色付けは属性ごとに最も人数の多かったものを示している。

#### (1) 学部別の地域活動への参加の程度

まず、観光学部の学生は最も特徴的であった。初年次ながら、何らかの地域活動にすでに「参加」している学生が56.3%（36名）も存在している。「不参加／関心あり」とあわせると約80%に上る。また「不本意参加」「不参加」の学生も少ない。本学の観光学部は、2008年に「日本国内における観光学教育研究拠点」として設置され、地域活動への参加の機会を地域インターンシップ（LIP: Local Internship Program）として持っている。このLIPには、2015年度の1年次学生70名（入学定員110名）が参加していることが影響していると想定される。

次に、システム工学部、教育学部、および経済学部において、地域活動に「参加」経験のある学生は1.9～8.0%と少なかった。すべての「不参加（関心ありを含む）」は63.1～74.7%と多いが、一方で不参加ながら「不参加／関心あり」との回答者が30.6～56.0%存在していた。このことから、関心が低く参加していないというよりも、初年次学生で地域活動への参加の機会そのものが少ないことが理由としてあげられよう。

最後に、「知らない」という回答者がシステム工学部、教育学部、および経済学部で14.7～34.0%みられた。学生が地域活動に不参加であったとしても、地域課題の知識・原因や社会的背景など課題の認知は避けて通れない。今後は、教育を通じて最低限の知識伝達が必要であることを指摘しておきたい。

#### (2) 性別ごとの地域活動への参加の程度

参加の程度には、性別の違いがみられた。男女ともに、「不参加／関心あり」が最も高い割合となっていたが、実際に「参加」している学生は女性19.1%（38名）が男性5.9%（19名）より多かった。表6の属性別の希望就職地においても男性よりも女性が「地元志向」であったことから、女性がより地域志向性が高い可能性が考えられる。

表9 学部と性別にみた地域活動への参加

地域活動への 参加程度	学部				性別		合計
	システム 工学部	観光学部	教育学部	経済学部	女性	男性	
参加	4 1.9%	36 56.3%	11 6.3%	6 8.0%	38 19.1%	19 5.9%	57 10.9%
不参加/ 関心あり	63 30.6%	17 26.6%	70 40.0%	42 56.0%	87 43.7%	105 32.7%	192 36.9%
不本意参加	2 1%	1 2%	3 2%	2 3%	2 1.0%	6 1.9%	8 1.5%
不参加	67 32.5%	6 9.4%	54 30.7%	14 18.7%	37 18.6%	104 32.4%	141 27.1%
知らない	70 34.0%	2 3.1%	36 20.5%	11 14.7%	32 16.1%	87 27.1%	119 22.8%
未回答		2 3.1%	1 0.6%		3 1.5%		3 0.6%
合計	206 100.0%	64 100.0%	175 100.0%	75 100.0%	199 100.0%	321 100.0%	520 100.0%

## 3.4 和歌山県への興味・関心

アンケートを実施した5科目の授業を通じて、和歌山県への興味・関心の程度について聞いた。その結果について、関連が想定される学部と出身地別に表10と表11にまとめた。

## (1) 学部別の和歌山県への興味・関心

全学部をみると、「大いに深まった」と「深まった」を合わせると、48.5%とおおよそ過半数であった。学部別にみると、すべての学部で「深まった」との回答者が最も多かった。しかし、その割合には学部間で違いがみられ、最も深まったのが観光学部、続いて経済学部と教育学部であり、システム工学部では興味・関心の程度があまり深まっていなかった。この理由として、理系学部では客観視できるデータや他地域との比較などが和歌山県の相対化があまり強調されなかったものと考えられる。

表10 授業後の和歌山県への興味・関心の程度（学部別）

和歌山県への 興味・関心	学部				合計
	システム 工学部	観光学部	教育学部	経済学部	
大いに深まった	5 2.4%	10 15.6%	11 6.3%	3 4.0%	29 5.6%
深まった	77 37.4%	29 45.3%	77 44.0%	40 53.3%	223 42.9%
どちらともいえない	65 31.6%	15 23.4%	50 28.4%	17 22.7%	147 28.2%
あまり深まらなかった	26 12.6%	6 9.4%	18 10.2%	6 8.0%	56 10.7%
全く深まらない	33 16.0%	3 4.7%	17 9.7%	8 10.7%	61 11.7%
未回答		1 1.6%	2 1.1%	1 1.3%	4 0.8%
合計	206 100.0%	64 100.0%	175 100.0%	75 100.0%	520 100.0%

## (2) 出身地別の和歌山県への興味・関心

出身者の多かった大阪府と和歌山県についてみると、「大いに深まった」と「深まった」との回答者は和歌山県 50.0%（78 名）が大阪府 46.5%（107 名）よりもやや多かった。一方で、「深まらなかった」と「全く深まらなかった」との回答者が大阪府 30.9%（71 名）で和歌山県 15.4%（24 名）よりも約 2 倍と多かった。この傾向は、和歌山県を除く近畿地方全体でみても同様の傾向であった。しかし、近畿地方以外の出身者にとっては、そうした傾向はみられなかった。これらのことから、授業の内容が大阪府を含む近畿地方出身者にとって、身近な和歌山県の事柄であったため、近畿地方全体での位置づけや相対的な比較があれば、より理解を助けたかもしれない。

表 11 授業後の和歌山県への興味・関心の程度（出身地別）

和歌山県への 興味・関心	出身都道府県		地方		合計
	大阪府	和歌山県	和歌山を除く 近畿地方	近畿地方 以外	
大いに深まった	10 4.3%	9 5.8%	16 5.4%	4 5.8%	29 5.6%
深まった	97 42.2%	69 44.2%	124 42.0%	30 43.5%	223 42.9%
どちらともいえない	52 22.6%	52 33.3%	74 25.1%	21 30.4%	147 28.3%
あまり深まらなかった	29 12.6%	13 8.3%	37 12.5%	6 8.7%	56 10.8%
全く深まらない	42 18.3%	11 7.1%	43 14.6%	7 10.1%	61 11.7%
未回答		2 1.3%	1 0.3%	1 1.4%	4 0.8%
合計	230 100.0%	156 100.0%	295 100.0%	69 100.0%	520 100.0%

## 4. おわりに

本アンケートを基に、和歌山大学の初年次学生の希望就職地について現状把握を行った。その結果について、以下の 3 点について要約することができる。

ひとつめとして、入学前に居住していた出身地での就職を希望する「地元就職希望者」が存在する。出身地、通学圏、性別、学部別様々な項目において、約 20% の「地元就職希望者」が存在していた。和歌山県内出身者に限れば、「地元就職」を必ずしも出身市町村に限定したものではなく「和歌山県内就職」と広く捉えていた。

ふたつめに、初年次学生の時点ですでに約 20% が「県外」あるいは「海外」を志望していた点である。また、希望就職地を「場所不問」とする学生も約 20% あり、合わせると過半数近い。

最後に、地域活動への「参加」と「不参加／関心あり」の学生は半数近くいる一方で、課題そのものを「知らない」とする学生も約 20% いた。教育を通じて

社会課題を伝えていくと同時に、地域活動への参加を促すことで、学生に対して「地方が就職選択において選択肢のひとつになることを示すこと」に繋がるともいえる。

#### 参考文献

文部科学省（2008）大学の国際化と地域貢献、平成 20 年度文部科学白書、オンライン版、

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab200801/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200801/index.htm)

文部科学省（2012）国立大学改革実行プラン、文部科学省ホームページ、

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/1341970.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1341970.htm)

文部科学省（2015）地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）、文部科学省ホームページ、

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/coc/](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/)

参考資料 1 「わかやま未来学副専攻」に関する学生アンケートの用紙

「わかやま未来学副専攻」に関する 学生アンケート（お願い）		① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ※記入しないでください（事務局記入欄）						
このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から「わかやま未来学副専攻」の充実に資することを目的として実施するものです。なお、ご回答いただきました内容は副専攻や関連授業の改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。								
次の質問 1 ～ 9 を読み、黒枠内で最も当てはまる番号の○を「1個だけ」塗りつぶして下さい。								
【質問 1】あなたの学部は		① 経済 ② 教育 ③ シス工 ④ 観光 ⑤ その他						
【質問 2】あなたの学年は		① 1 年 ② 2 年 ③ 3 年 ④ 4 年以上 ⑤ その他						
【質問 3】あなたの性別は		① 男性 ② 女性						
【質問 4】大学入学以前に住んでいた地元（市町村）はどこですか？ （①を選ばれた方は、下線部も記入してください）								
① （ ） 都・道・府・県 （ ） 市（区）・町・村 ② 海外などその他								
【質問 5】大学入学後に住んでいる市町村はどこですか？（②を選ばれた方は、下線部も記入してください）								
① 地元（実家等からの通学） ② 大学入学前と異なる：（ ） 都・道・府・県 （ ） 市（区）・町・村								
【質問 6】あなたは、大学生活の中で地域との交流や、地域課題の解決や支援などにどの程度関わっていますか？								
① すでに参加している ② 関心はあるが、参加まではしていない ③ 関心がないので参加していない ④ 関心がないが、やむなく参加している ⑤ そもそも交流の仕方や課題を知らない								
【質問 7】「わかやま」学群の授業科目を受講したことにより、和歌山県について関心が深まりましたか。								
① 大いに関心が深まった ② 関心が深まった ③ どちらともいえない ④ あまり関心が深まらなかった ⑤ まったく関心が深まらなかった								
【質問 8】入学時に「就職地（卒業後の居住地）」の希望は持っていましたか？								
① 【質問 4】で回答した地元に戻り就職したい ② 海外で住み、就職したい ③ 和歌山県内で就職したい ④ 場所は特に問わない ⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く） ⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない ⑦ その他（ ）								
【質問 9】平成 28 年度後期から和歌山県をフィールドに地域の課題を解決しながら自らが成長をする“わかやま未来学副専攻”の導入科目である「地域協働セミナー」が始まります。この授業を受講する予定ですか。								
① 受講を予定している ② 受講を予定していない ③ わからない								
《参 考》 科目名：地域協働セミナー								
担当教員		吉村典久、藤田和史、木村亮介、小川宏樹、大浦由美、永瀬節治						
対象学年		1 年生	単位数	2 単位	曜日・時間	後期水曜日・1 時限	講義室	G101
授業の概要		わかやま未来学副専攻の導入科目として、和歌山県の「まち」「ひと」「しごと」に関する概要を知る講義。和歌山県の地方都市・地域社会が抱える多様な複合的な課題を理解し、その解決に取り組むための基礎知識を学ぶ。副専攻の 4 つのテーマ「6 次産業化」「商品・技術開発」「移住先進地の再興」「命と生活のインフラ」に沿って、それぞれの課題に取り組む様々な立場の方（ゲストスピーカー）から生の話を聞く。現状と課題、そして今後の可能性を学び、それらに自らがいかに取り組んでいくことができるかを考えます。						